

S.G. Report

No.2

熊本県立大学理事長 五百旗頭 真先生 講話

●日 時：平成26年7月8日（火）熊本県立劇場

●参加者：1年生

●テーマ：『未来のグローバルリーダーへ』

●講師経歴：

日本の政治学者・歴史学者、熊本県立大学理事長、神戸大学名誉教授。

神戸大学大学院教授、防衛省防衛大学校長、日本政治学会理事長、日本学術会議会員を歴任。文化功労者であり、サントリー学芸賞、吉田茂賞、吉野作造賞などを受賞されました。

2011年4月に創設された東日本大震災復興構想会議議長を務め、2012年2月に創設された復興推進委員会委員長を務められました。



生徒の感想（抜粋・おおむね原文のまま）

改めて、自分たちがこれから日本を背負っていくグローバルリーダーになっていかなければならないと思った。

（～中略～）「今までの歴史の中ではつらいことや苦しいことはいつだってあるが、再生バネが必ず働く」とおっしゃった。今の日本は様々な危機に囲まれている。それでも再生バネが働く。でもその再生バネはただ待っているだけでは働くかと思う。誰かが再生を促さなければいけない。その「誰か」が自分にならなければならない。自分たちが再生バネとなってより良い社会を作っていくべきであると思う。

（～後略～） 【SY】

（～前略～） 私は、新しい何かを創り出すような仕事に就きたいと考えているので、私も日本を支えられるような人材になりたいと思いました。また、どんな状況下においても、自分たちの中の「再生バネ」で何事にもめげない強い人間でありたいと思いました。そのために、今すべきことをしっかりとやって「自分を奮い立たせてがんばれる人間」を目指して努力したいと思いました。そして自分のことばかりを考えるのではなく、日本人の持つ助け合いの精神をもって、他者にも目を向け、手を差し伸べられるような人に1人1人かなれば、日本はより多くの人から信頼される国になると思います。

（～後略～） 【MA】

入学してからと言うもの、私たちは SG の取り組みの目的について様々な場面で聞く機会があしました。「未来のグローバルリーダーを育てる」とこれが SG の目的でしたが、活動内容は英語に関するものが多く、理系に進みたいと考えている私にとってはあまり関係のない話だと正直思っていました。しかし SGH で英語に重点をおいているのは、海外の人々との交流の手段を磨くためであって、これが最終的に「グローバルリーダー」の武器になるからだということが、今回の講話を聞いてよく分かりました。【NM】



私はこの講演を聞いて一番心に残ったのは、「自分のため」だけでなく「他の人のため」、「社会のため」になることを考えて行動すべきという部分です。人は痛みを知って優しくなれると聞いて、私も自分の経験を生かし、他の人、ひいては社会のために役立てていきたいと思いました。（～中略～）

これからは幾度となく困難を乗り越えてきた先人に学び、私たちが日本をよりよい国にしていくことができるよう、何ができるかを常に考え、行動していく様になりたいです。

【IN】

（～前略～）高校生1人が何かようと考えたところでそれは小さい力だと思います。ですが、大切なのはたとえ無力でも何かしたいという強い意志を持つことではないかと私は思います。その意思是きっと自分の将来にも影響してくるはずだし、自分自身の勇気につながると思います。私にとって今回の講演は、自分の中でいろいろなことが変化し、とても有意義な時間となりました。また、五百旗頭先生の言葉で特に印象深いのが「苦難や困難を乗り越えた人だけが、強く優しくなる」という言葉です。一人ひとりもそうであるし、これからの日本にも言えることだと思います。『再生のDNA』を持つ日本。そんな日本を支えていける人になりたいと思いました。【FM】

今の日本の置かれている状況や世界の動き、今後私たちがどのようにしてリーダーシップをとっていかなければいけないのか、ということが分かりました。（～中略～）

私は今まで周りことを第一に考えて行動できていたのか、自信がありません。これから危機に直面している日本を再生していくために、社会のため、世界のためのリーダーになれるよう、日々の生活で色々なことを学んでいきたいと思いました。【MH】

（～前略～）危機に直面した時こそ、再生するチャンスということは、私のこれから的人生にも生かすことができる言葉だと思いました。苦しいときに逃げたり、楽な道を選んでいくのではなく、その状況に耐えて、苦しむことで、強くなり周りにもやさしくなることができる、と聞き今までの自分から変われるチャンスだと思いました。（～後略～）

【NN】



（～前略～）五百旗頭先生の講演は私の知らないことはかりでとても勉強になりました。その中で一番私の心に残っているのが「日本には再生する力がある」という言葉です。応仁の乱後、敗戦後、震災後など、日本はいつでも『再生』してきました。歴史としては知っていましたが、こうして聞くと改めてその力を実感しました。今の日本の危険と合わせて考えると、その危険が降りかかってきたとき、日本を再生するのは私たちであり、その意識がグローバルリーダーに求められるだと気づきました。難しいことですが、これからそのことを忘れずに学校生活を過ごしていきたいと思います。【KM】

（～前略～）講演を振り返ってみると、意外にも日本の話だったな、と思いました。「これはグローバルなのか」と疑問に思ってよく考えてみると、グローバル化が進む社会の中だからこそ、まず足元を見なさい、ということなのだろうと思いました。いろんな国の色んな文化を持つ人と関わる中で自分をしっかり持つていなければ対等でいられないだろうし、日本人としての自覚が大切だと気づかされました。

【HW】



